

## モクズガニ種苗放流後の河川での成長ーその2

当所では、放流したモクズガニ種苗の成長や生残等を明らかにするため、天然稚ガニの遡上が困難と思われる旭川ダムの上流に位置する小河川で、放流後の追跡調査を行っています。

放流1年3か月後の平成30年8月には、甲幅が2.7mm から19mm に成長していたことを本誌(平成30年9月28日付)で報告しましたが、その後2年が経過したので、新たな状況を報告します。

カニ籠<sup>かご</sup>で捕獲した個体の平均甲幅は、放流から2年3か月後(令和元年8月)には、51mm、同11月には54mm、また、翌年の放流から3年2か月後(令和2年7月)には63mm、同11月には67mm に成長していました。また、放流後3年が経過した令和2年度に捕獲した個体に関しては、雌に比較し

て、雄が大きい傾向が見られました(図1)。

放流1年後(平成30年度)は小型個体しか捕獲できなかったため、成長は随分遅いと予想していましたが、脱皮殻やその後に捕獲した個体の甲幅から、成長は順調と思われました。また、最近、捕獲できた個体は既に漁獲対象サイズであり(図2)、産卵のために海を目指して河川を降下する日も遠くないと思われます。

今後は、平成29年5月に放流したこのモクズガニ種苗が、いつまでこの小河川に残存するかを明らかにしたいと考えています。

最後になりましたが、本調査に協力下さっている地元の方々、内水面漁業協同組合の関係者の方々に御礼を申し上げます。

(栽培・資源研究室 増成)

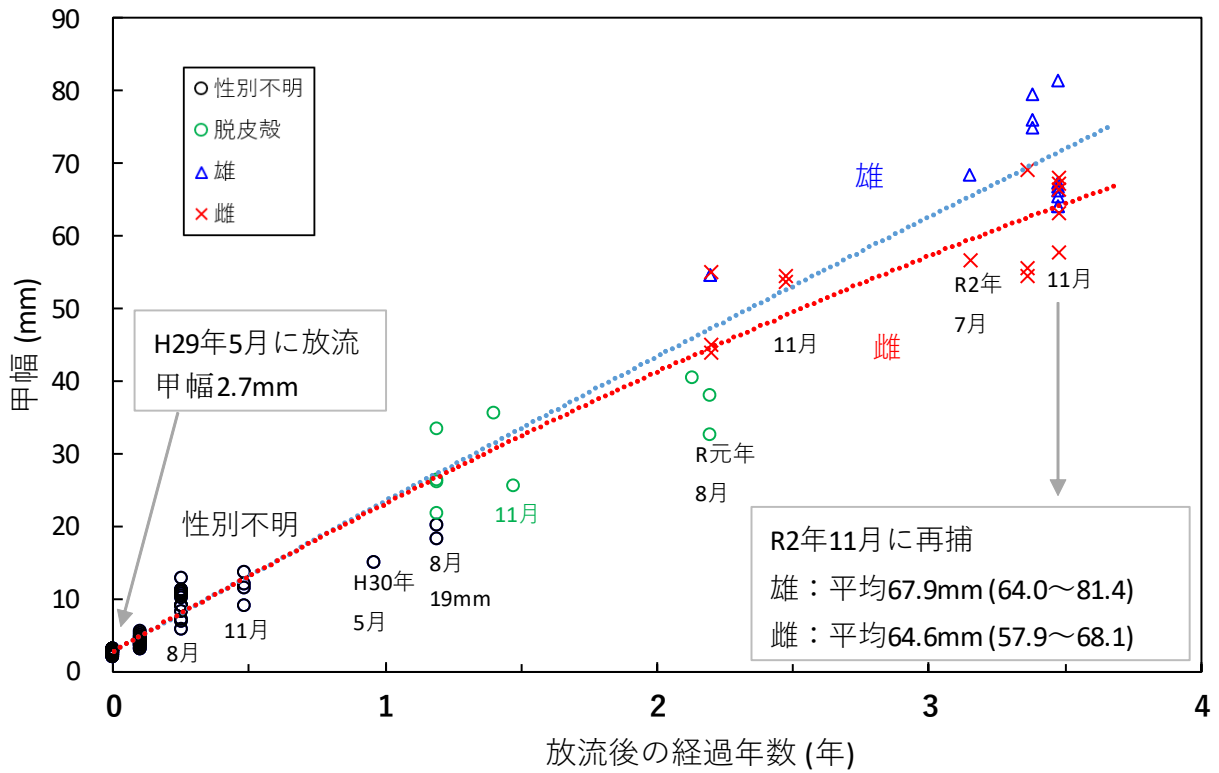


図1 モクズガニ種苗(甲幅2.7mm)放流後の河川での成長



図2 再捕されたモクズガニ(令和2年11月, 甲幅81mm)